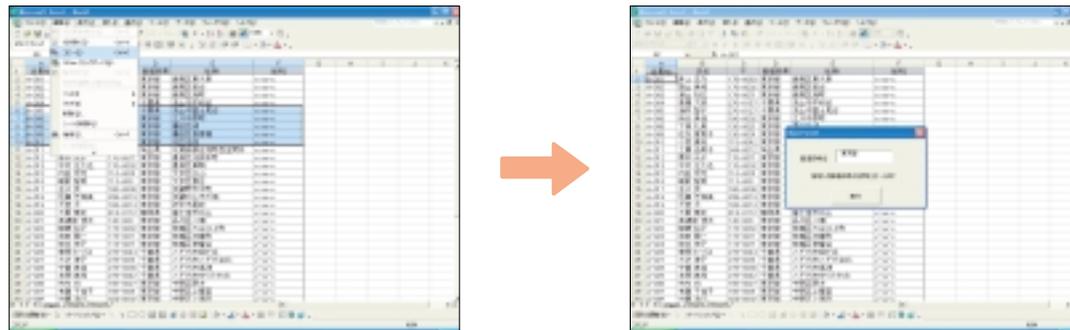


マクロとは

マクロとは、Excel、Word、Access、PowerPointなどMicrosoft社製のソフトウェアでの操作を自動化するものです。マクロを利用すると、同じ操作を何度も繰り返して行うときに、一連の操作をボタン一つで自動的に実行できます。この機能を利用することで、人の手で同じ処理を繰り返す場合に比べて、速く正確に処理を実行することができます。

マクロを利用すると、面倒な手作業も速く正確に実行できます。

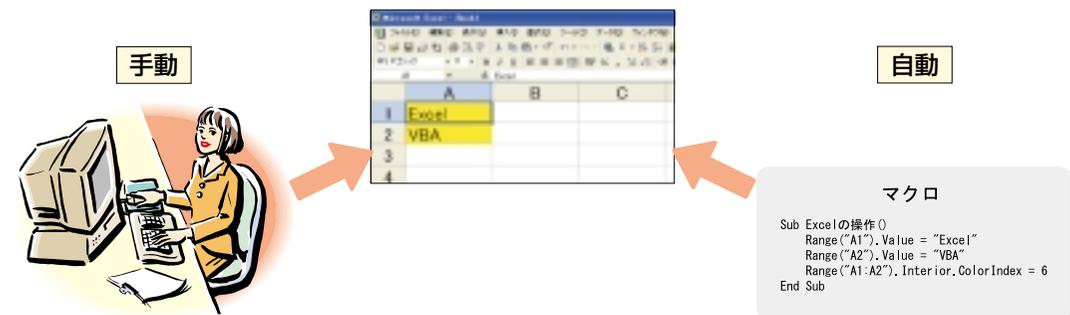


VBAとは

Microsoft社のExcelには、VBAと呼ばれるプログラミング言語が備わっています。VBAを使うと、Excelの操作を自動化するためのプログラムを作成することができます。

VBAはVisual Basic for Applicationsの略で、Microsoft社の「Visual Basic」というプログラミング言語をもとに作られました。VBAでは、特有の単語（キーワード）を組み合わせることで命令文（コード）を記述し、マクロと呼ばれるプログラムを作成します。

VBAを使って作業を自動化する



通常私たちは、マウスやキーボードから命令を送ってExcelを操作します。

VBAを使うと、記述した命令どおりにExcelを操作できます。

オブジェクトとは

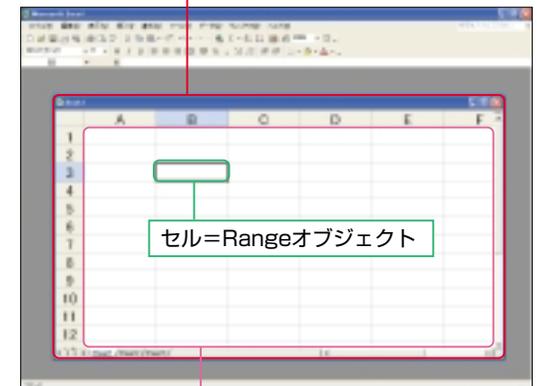
私たちがExcelを操作するときには、「セルにデータを入力」、「ワークシートを選択」などの命令をマウスやキーボードから送ります。一方VBAを使うと、記述された命令に従って色々な処理を自動で行えます。どちらの場合でも操作の対象となるセルやワークシートを指定しますが、このような操作の対象物をオブジェクトと呼びます。

オブジェクトの種類

Excelは「セル」、「ワークシート」、「ブック」などさまざまなオブジェクトから構成されています。それぞれRangeオブジェクト、Worksheetオブジェクト、Workbookオブジェクトと呼ばれます。VBAを使うと、これらのオブジェクトを自由に操作できます。

Excelを構成する色々なオブジェクト

ブック=Workbookオブジェクト



ワークシート=Worksheetオブジェクト

オブジェクトの指定方法

実際にVBAでオブジェクトを操作するためには、最初に目的のオブジェクトを記述しなければなりません。オブジェクトを表すための構文を覚えることが、VBAを習得する初めの一歩となります。

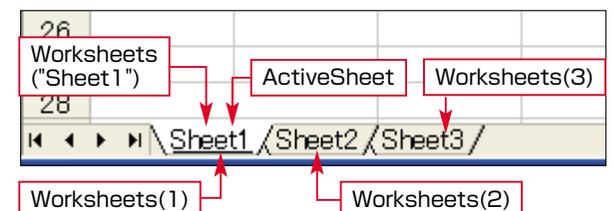
Worksheetオブジェクト

ワークシート（Worksheetオブジェクト）を表す構文も複数あります。

▼ワークシート名を指定してワークシートを表す
Worksheets("ワークシート名")

▼インデックス番号を指定してワークシートを表す
Worksheets(インデックス番号)
※一番左のシートがインデックス番号1になります。

▼アクティブなシートを表す
ActiveSheet



★ ヒント 文字列、数値の記述方法

VBAでは、シート名やセル番地などの文字列は「"」で囲んで記述します。また、インデックス番号などの数値はそのまま記述できます。なお、インデックス番号とは複数あるオブジェクト（ここでは、ワークシート）の順序を表します。